

FAMOS : ASCII インポートフィルタ使用手順

東陽テクニカ 技術 2 課

2014/07/10

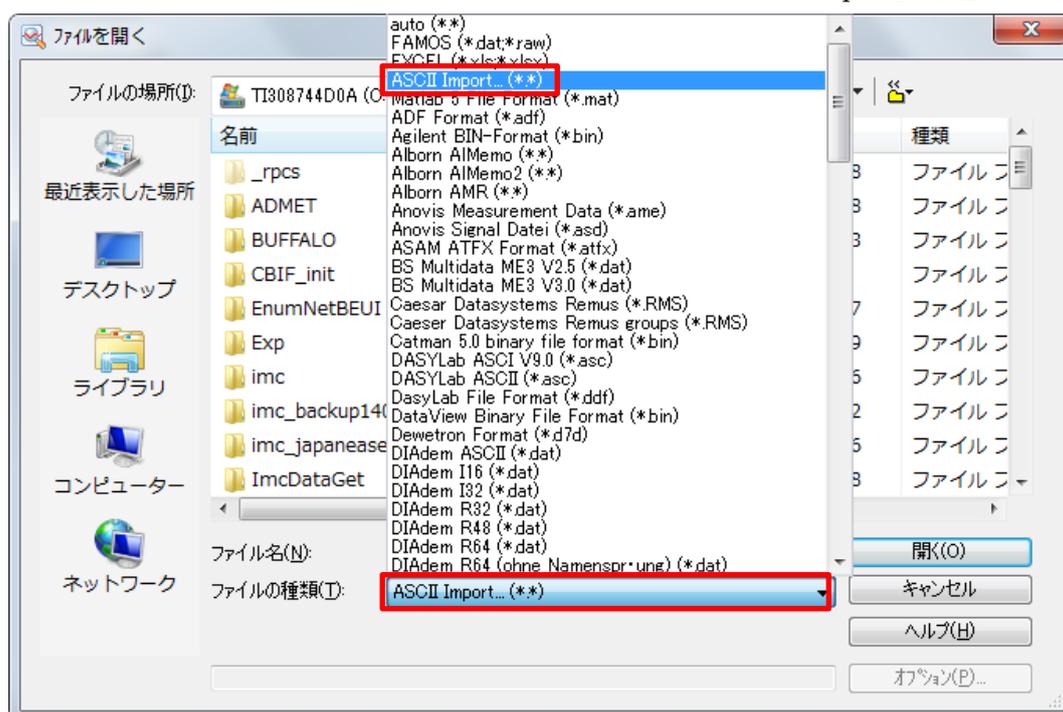
本手順書では、FAMOS のテキスト形式ファイル読込用の ASCII インポートフィルタの使用手順について説明いたします。

1) 例として、下記のような CSV ファイルを読み込むものとします。

ヘッダー、時間軸情報、チャンネル名、単位といった情報が含まれています。

	A	B	C	D	E
1	data1				
2	1996/6/7				
3					
4					
5	time	sintest1	sintest2	sintest3	
6	[sec]	[V]	[mV]	[m/s]	
7	0	-0.25438	-8.04E-02	-6.02E-02	
8	2.00E-05	3.49E-02	-7.96E-02	3.59E-02	
9	4.00E-05	2.59E-02	0.167201	0.139972	
10	6.00E-05	0.165248	0.535072	0.260116	
11	8.00E-05	0.303725	0.654936	0.402594	
12	1.00E-04	0.440971	0.786296	0.566777	
13	1.20E-04	0.576611	0.672474	0.750298	
14	1.40E-04	0.859233	0.929553	0.947903	
15	1.60E-04	0.692321	1.08243	1.14278	

2) FAMOS メニューの[ファイル > 開く]から、ファイル形式で「ASCII Import」を選択します。



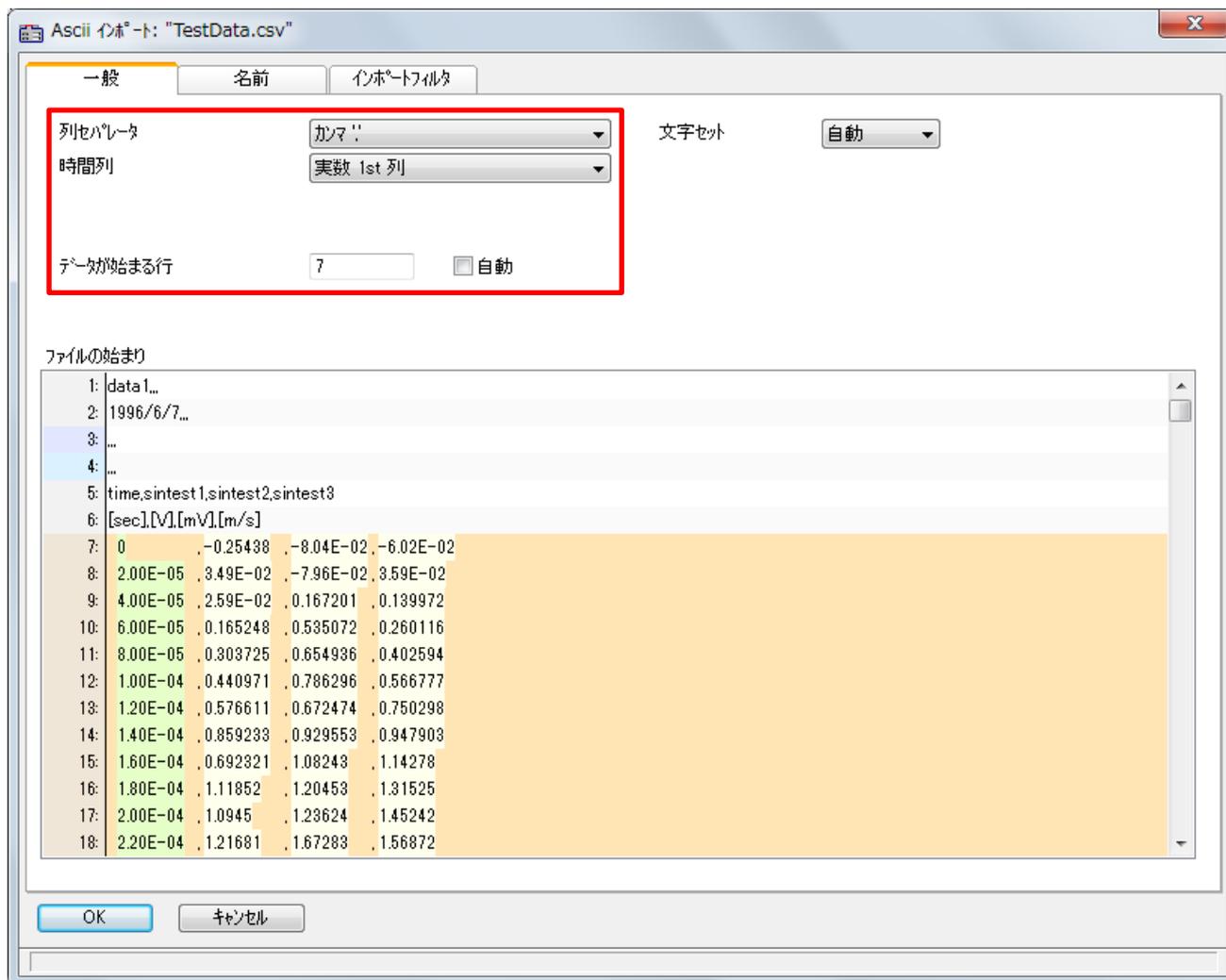
3) ファイルを選択して開くと下図のような画面が出現します、まずは[一般]タブで設定を行います。

列セパレータ : データの区切り形式 (カンマ、タブ、スペースなど) を選びます

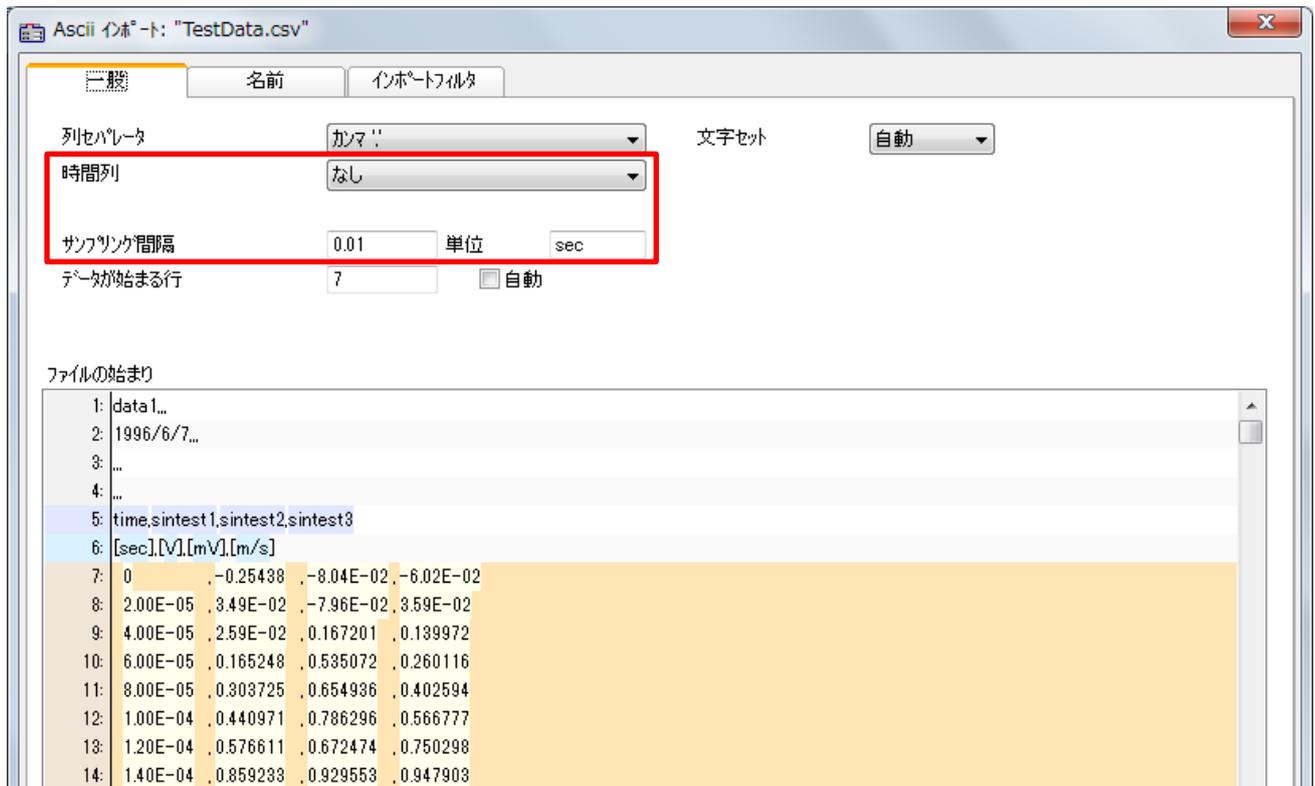
時間列 : 時間情報がどの列に含まれるかを選びます

データが始まる行 : 波形データの開始行を選択します

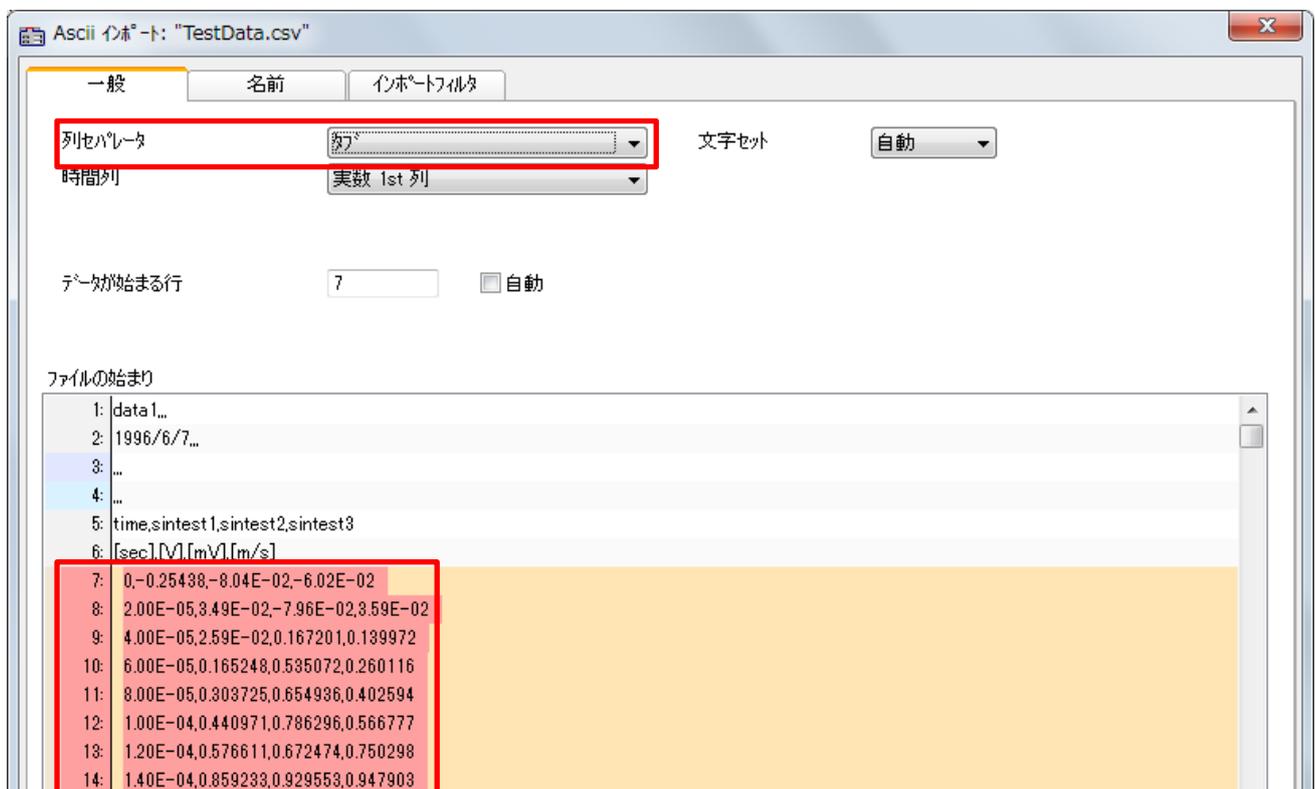
[自動]にチェックを入れると FAMOS がデータ行の開始を判断します



- 4) 時間情報が直接指定したい場合は、「時間列：なし」として別途サンプリング間隔と時間単位を入力します。

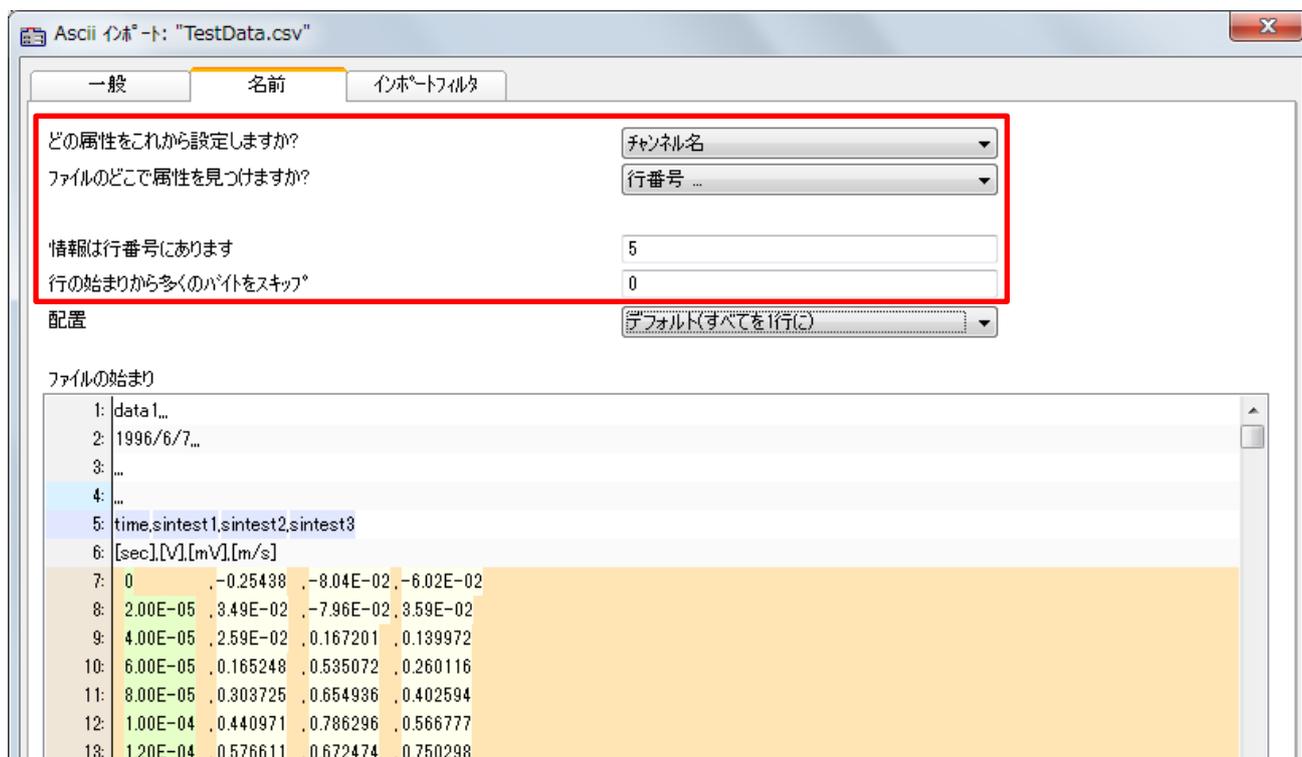


- 5) 列セパレータの選択が間違っている場合は、下図のようにデータ部分が赤色に表示されます。

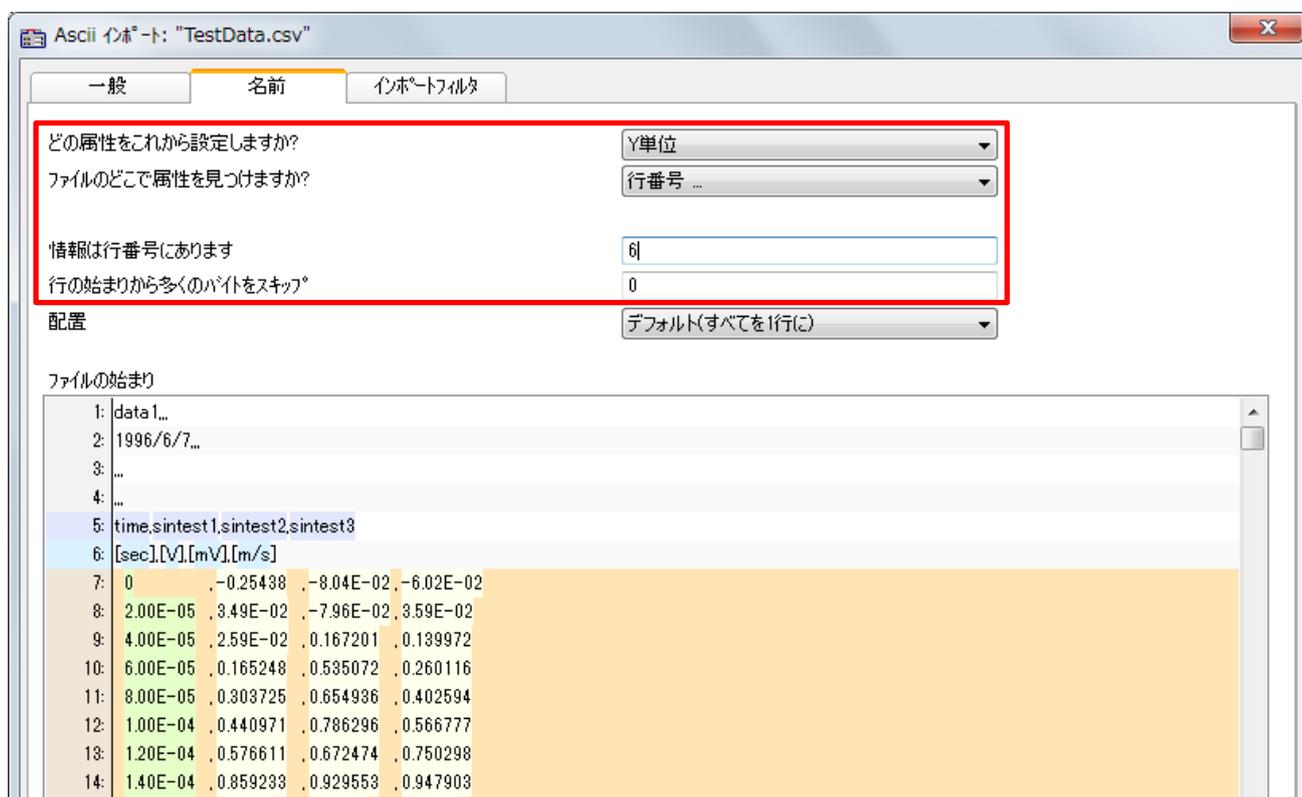


6) 次に[名前]タブでチャンネル名、単位の設定を行います。

サンプルデータの場合はチャンネル名がファイル上にあるため、下図のようにチャンネル名の含まれた行番号を指定します。

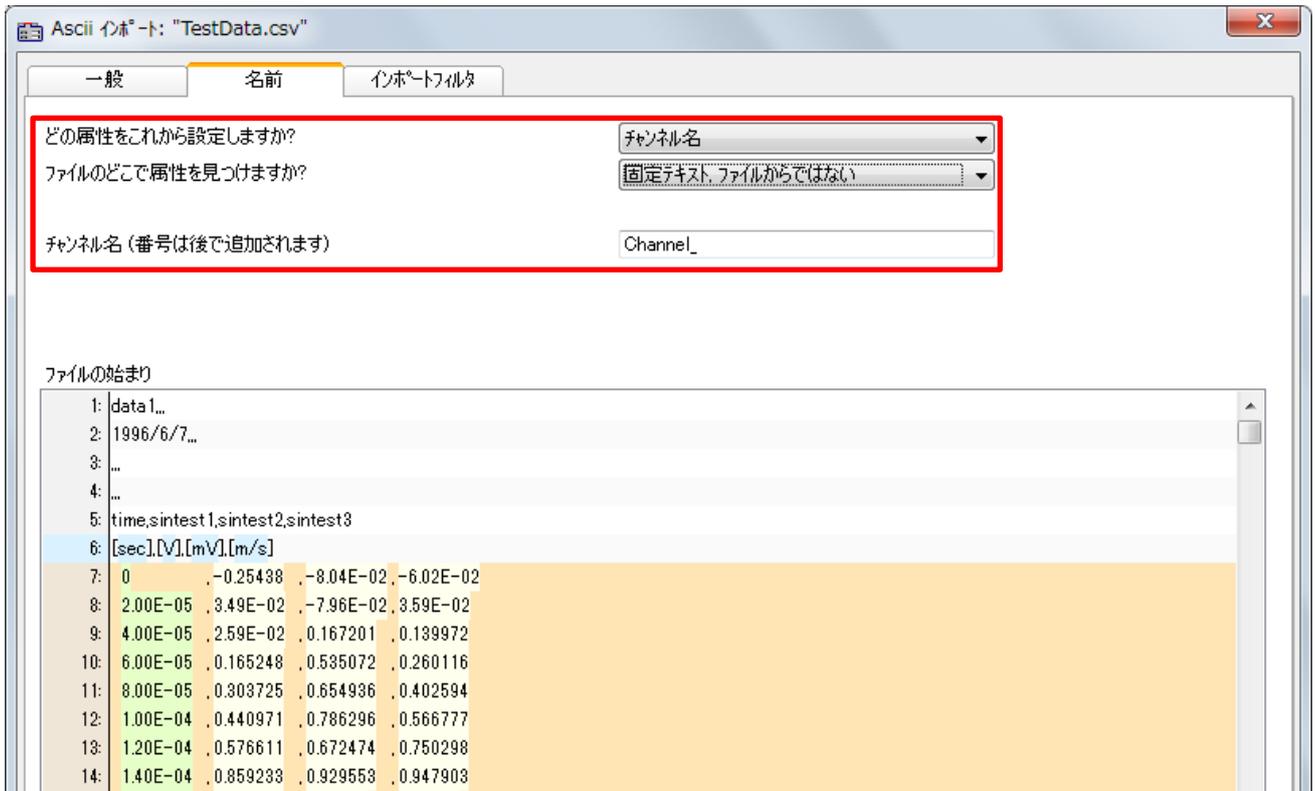


7) 同様に単位についても行番号を指定します。

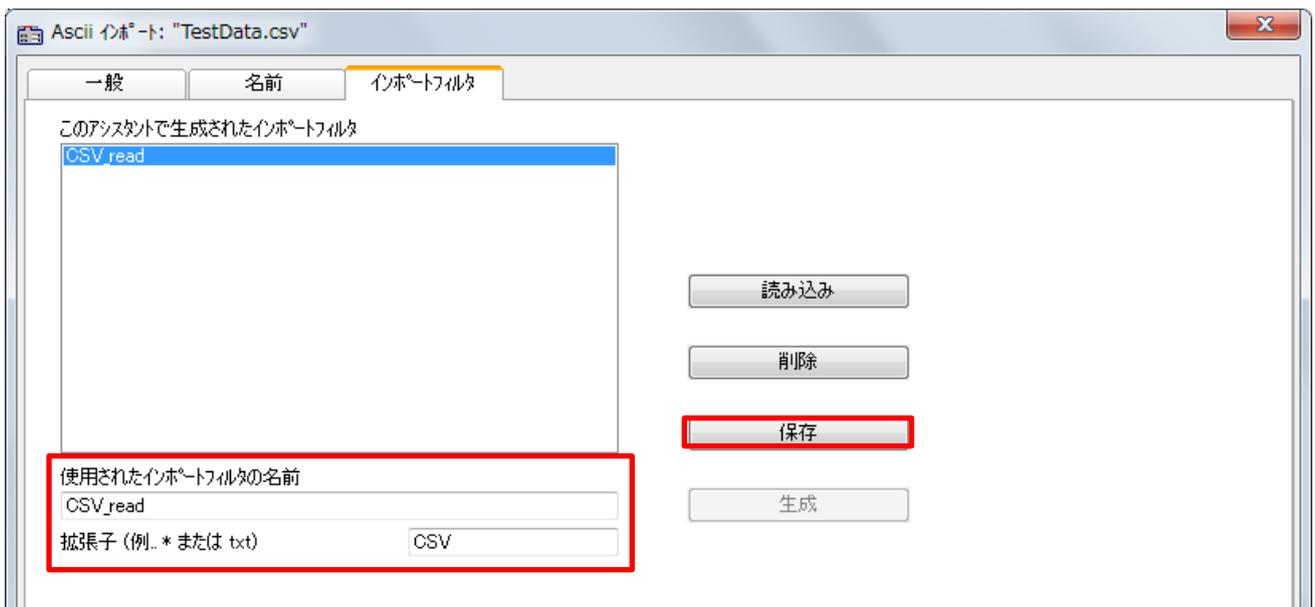


8) 下図のようにチャンネル名、単位を直接入力で指定することも可能です。

下図の場合、チャンネル名は「Channel_1, Channel_2, Channel_3」のように連番で設定されます。

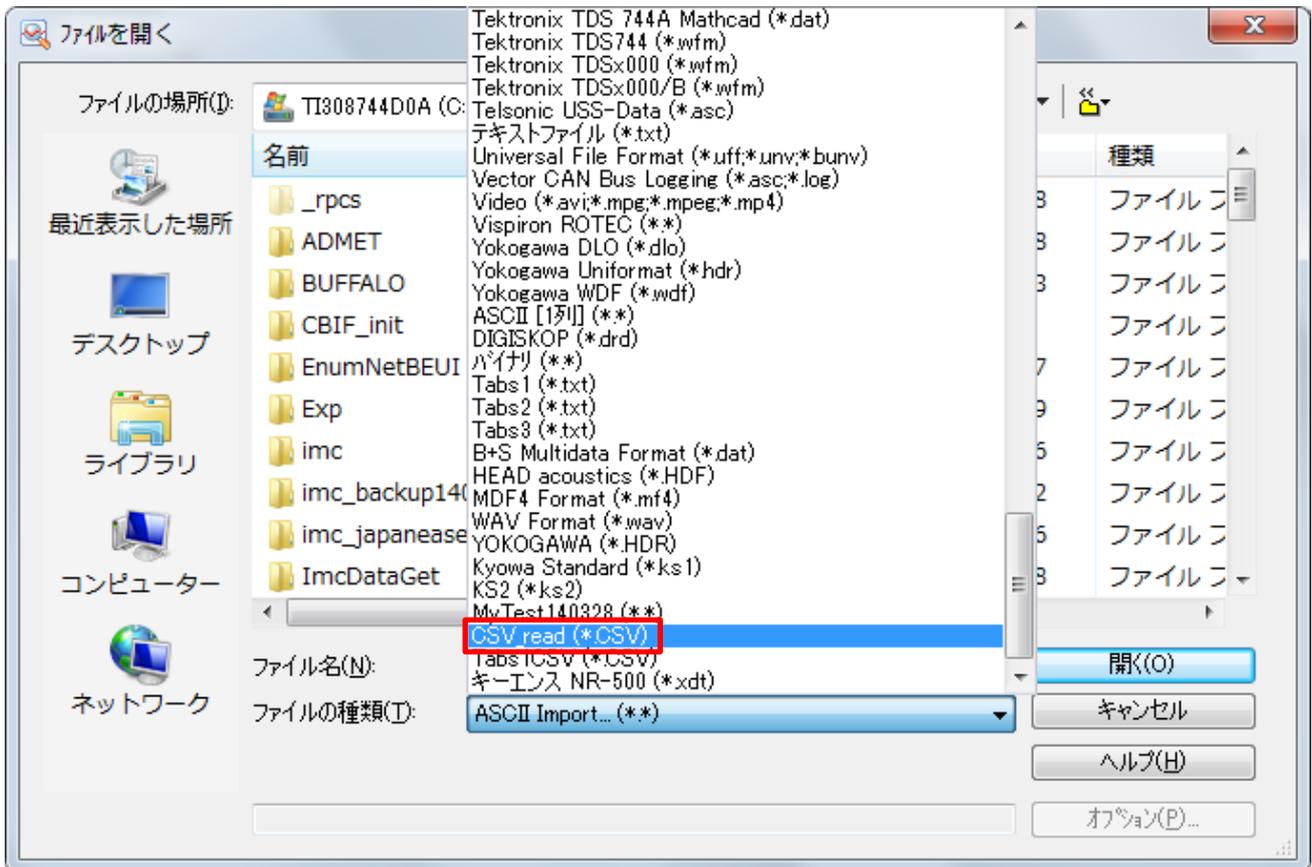


9) [インポートフィルタ]タブで、入力したインポートフィルタの情報を読み込み・保存することができます。新しく保存する場合は、インポートフィルタの名前を入力した後に[保存]をクリックします。読み込みの際の拡張子も指定可能です。



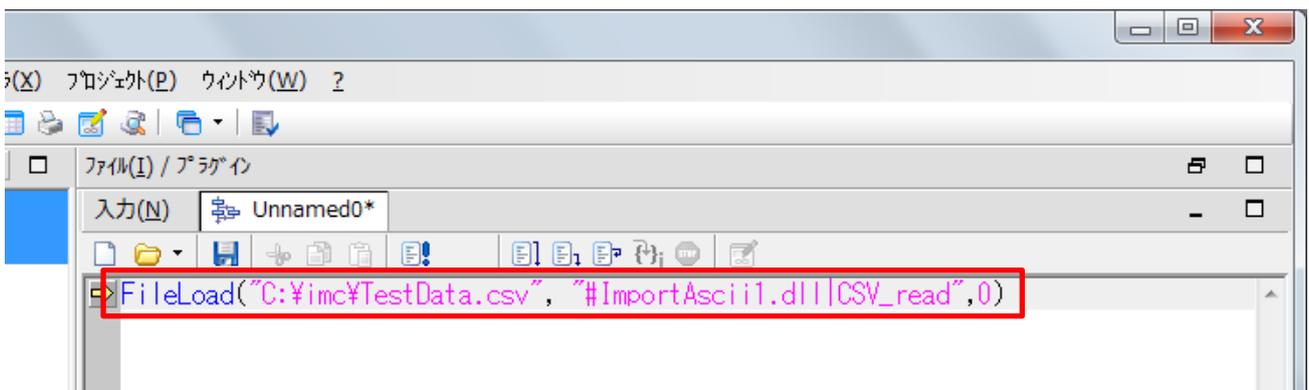
10) 最後に[OK]をクリックすれば読み込みが行われます。

11) ASCII インポートフィルタで新しく作成したインポートフィルタは、以後[ファイルの種類]に登場するため、これを選択すれば同じ形式で読み込みが可能です。



12) 作成したインポートフィルタはシーケンスで呼び出すことも可能です。
記述は下記の通りです。

FileLoad(“読み込むファイル名”, “#ImportAscii1.dll|インポートフィルタ名”, 0)



以上